

経済・金融フラッシュ

No.07-139 2008/1/24

貿易統計 07年12月～外需は10-12月期も成長率を大きく押し上げ

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

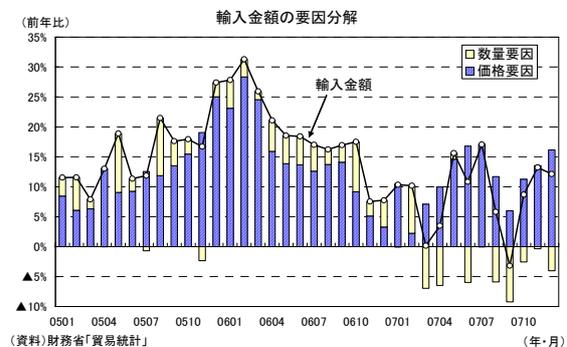
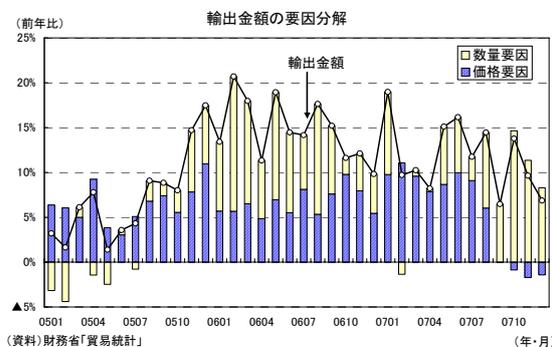
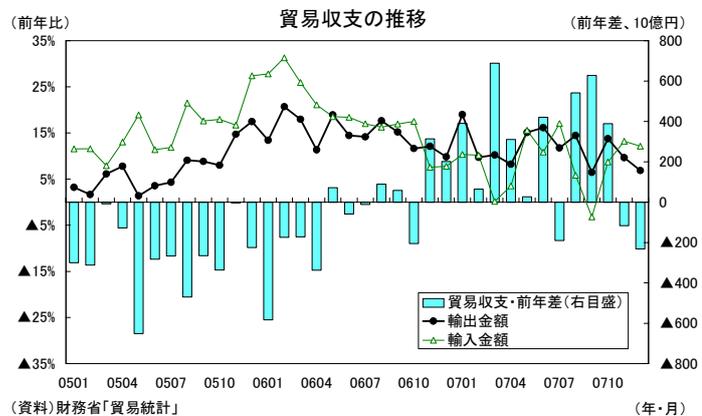
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は2ヵ月連続で悪化

財務省が1月24日に公表した貿易統計によると、07年12月の貿易黒字は8,779億円(前年比▲20.9%)となり、市場予想(ロイター集計:9,415億円、当社予想は9,656億円)を若干下回った。輸出が前月に続き前年比で一桁の伸びにとどまり、原油高の影響で輸入が2ヵ月連続で前年比二桁の伸びとなったため、貿易収支は2ヵ月連続で前年よりも悪化した。

輸出価格が前年比▲1.4%(11月:同▲1.6%)と4ヵ月連続でマイナスとなる中、輸出数量が前年比8.3%(11月:同11.4%)と伸びが鈍化したため、輸出金額は前年比6.9%となった(11月:同9.6%)。

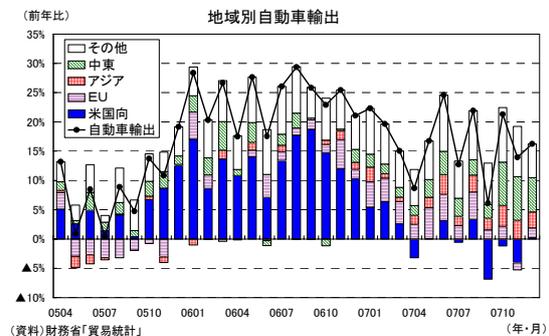
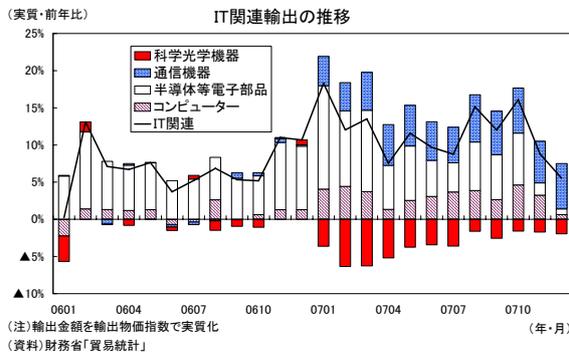
輸入数量は前年比▲3.7%(11月:同▲1.6%)と7ヵ月連続で減少したが、原油高の影響などから輸入価格が前年比16.4%(11月:同13.6%)の高い伸びとなったため、輸入金額は前年比12.1%(11月:同13.2%)と2ヵ月連続で二桁の伸びとなった。



2. 米国向け輸出の減少幅が急拡大

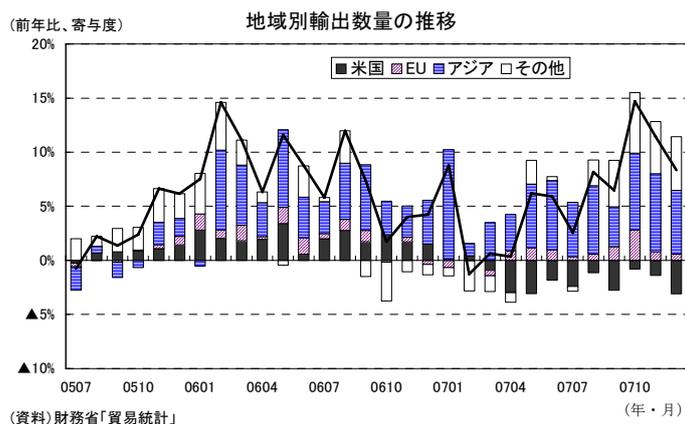
輸出の内訳を見ると、IT 関連品目では、通信機（名目・前年比 112.7%）は高い伸びを維持したが、半導体電子部品（同▲6.5%）、コンピューター（同▲2.4%）、コンピューター・部分品（同▲9.1%）、科学光学機器（同▲11.3%）、が減少し、全体では前月から伸びが大きく鈍化した。国内の電子部品・デバイスの在庫調整はほぼ終了したと見られているが、この分野は輸出動向に左右される面が強い。IT 関連品目の輸出に変調の兆しが見られることは気がかりな点である。

自動車輸出は前年比 16.3%（11 月：同 14.0%）と堅調を維持した。米国向けが 4 ヶ月ぶりに増加に転じ（それぞれ前年比 0.6%、10.0%）、アジア向け（同 40.3%）、中東向け（同 65.7%）は引き続き高い伸びとなった。



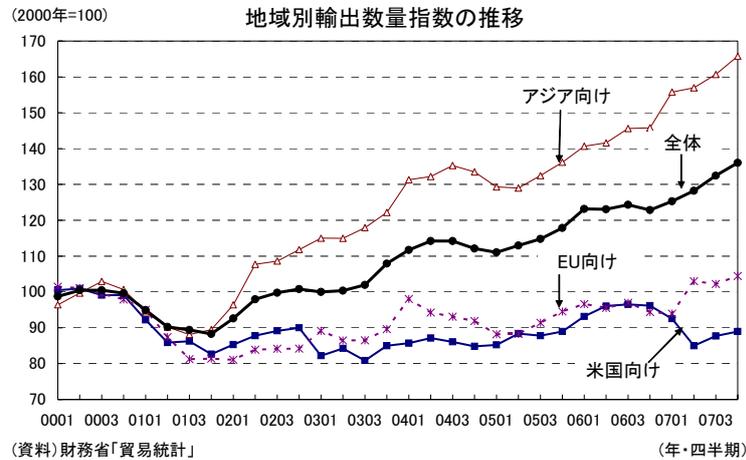
輸出数量を地域別に見ると、米国向けが前年比▲13.4%（11 月：同▲5.8%）とマイナス幅が急拡大したほか、アジア向け（11 月：前年比 14.9%→12 月：同 11.8%）、EU 向け（11 月：前年比 6.1%→12 月：同 4.4%）も伸び率が鈍化した。

輸出数量の伸びを地域別の寄与度で見ると、米国向けの減少をそれ以外の地域向けの増加が大きく上回る形が続いており、特に、中東、ロシアなど、主要 3 地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向けの輸出の好調が際立っている。



10-12 月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比 1.4%、EU 向けが同 2.2%、アジア向けが同 3.2%、全体では同 3.1%となった。米国向けの輸出数量は 2 四半期連続で前期比増加となったが、4-6 月期に前期比▲8.2%と急

速に落ち込んだ反動によるところも大きく、米国向け輸出は基調としては依然低迷していると判断される。



米国経済は住宅市場の急速な悪化が続く中、ここに来て個人消費の減速も鮮明になっている。米国向けの輸出数量は1-3月期には前期比で減少に転じ、輸出全体を大きく下押しする可能性が高いだろう。

3. 外需は7-9月期に続き10-12月期も成長率を大きく押し上げ

12月までの貿易統計と11月までの国際収支統計の結果を踏まえて、07年10-12月期の実質GDPベースの輸出入を試算すると、輸出が前期比4%弱、輸入が同1%弱となった。外需寄与度は7-9月期には前期比0.5%となり、経済成長率を大きく押し上げたが、10-12月期も7-9月期と同程度のプラス寄与になると予想される。

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)